

重要品種の育成及びその種苗の生産の振興に関する法律 (気候変動等対応品種法) について

参考資料

令和8年10月
農林水産省

目次

重要品種育成事業計画の特例措置

①農研機構の研究開発設備の供用等	2
②無人航空機の飛行許可・承認手続きのワンストップ化	3
③出願料・登録料の減免、優先審査	4
（参考）産官学の連携による品種育成の事例	5

重要品種種苗生産事業活動計画の特例措置

①地域計画の協議の場への参加	6
②栽培管理協定に係る特例	7
③農地転用許可手続きのワンストップ化	8
（参考）種苗生産の効率化に向けた取組事例	9

気候変動等対応品種法関連の令和9年度予算概算要求の概要

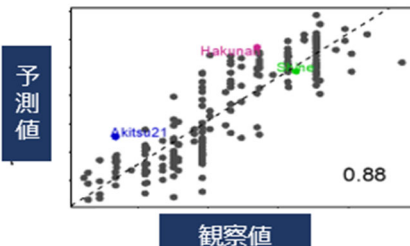
育成・普及すべき重要品種の考え方	14
------------------	----

- 重要品種育成事業計画の認定を受けた者が認定重要品種育成事業を実施するに当たり、農研機構が保有する設備等の供用や専門家の派遣を受け、品種育成に取り組むことが可能。

供用可能設備等のイメージ ※今後、農研機構と調整の上で決定

交配・選抜

スマート育種支援システム



・ゲノム等の育種ビッグデータやAI等を活用した形質予測により交配・選抜を支援する育種支援ツール
【実用化次第、順次利用を開始】

ロボティクス人工気象室



・様々な環境条件を再現・実現するとともに、作物形質を連続的に計測する機能を有し、高温耐性の検定等が可能な人工気象室

品質評価

成分分析機器類



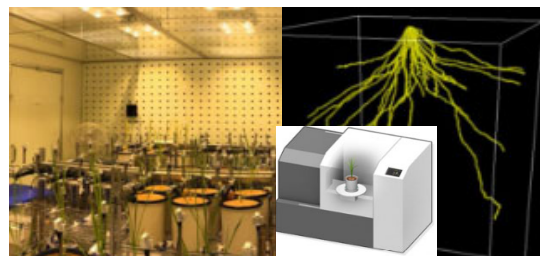
・小麦、大麦、大豆等の穀類の成分分析、加工適性等の品質評価を行うための機器

DNAマーカー選抜機器



・DNAマーカー選抜に使用する機器

Rootオミクス実験室



・ポット毎の土壌環境（地温、土壌水分、栄養）の制御機能を有する栽培室
・X線CTを用いた地下部の非破壊計測室

専門家派遣



・設備の利用等のサポート 等

品種登録
出願

無人航空機の飛行許可・承認手続きのワンストップ化（航空法の特例）

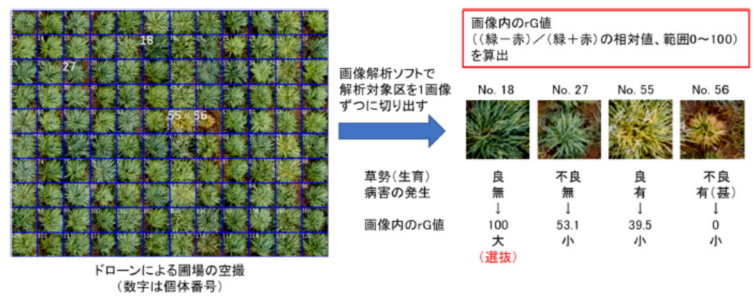
【育成事業計画の特例措置②】

- 無人航空機（農業用ドローン等）を使用し、特定飛行を行う際には、航空法上の許可又は承認を得る必要。
- **重要品種育成事業計画の認定を受けた者が認定事業の一環として、無人航空機による農薬散布や作物の生育状況のセンシング等を行う場合、一部の特定飛行※について航空法の許可又は承認があったものとみなす。**

品種育成におけるドローンの活用イメージ

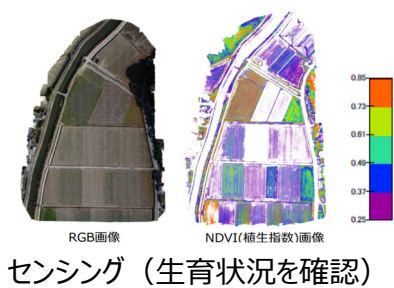
○空撮画像解析による選抜

- ・ 品種育成では、数千～数万の多数の個体から優良個体を選抜するに当たり、個別に生育量や形態の違いを調べる必要。
- ・ ドローンによる空撮画像により、短時間で生育量等を調べることが可能となり、選抜が効率化。

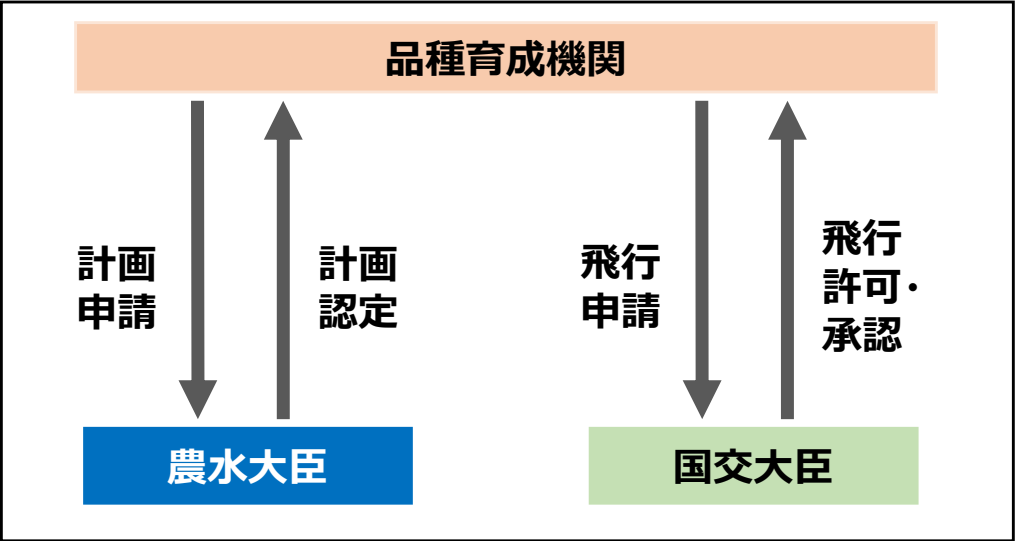


○栽培管理（播種・センシング・農薬散布等）

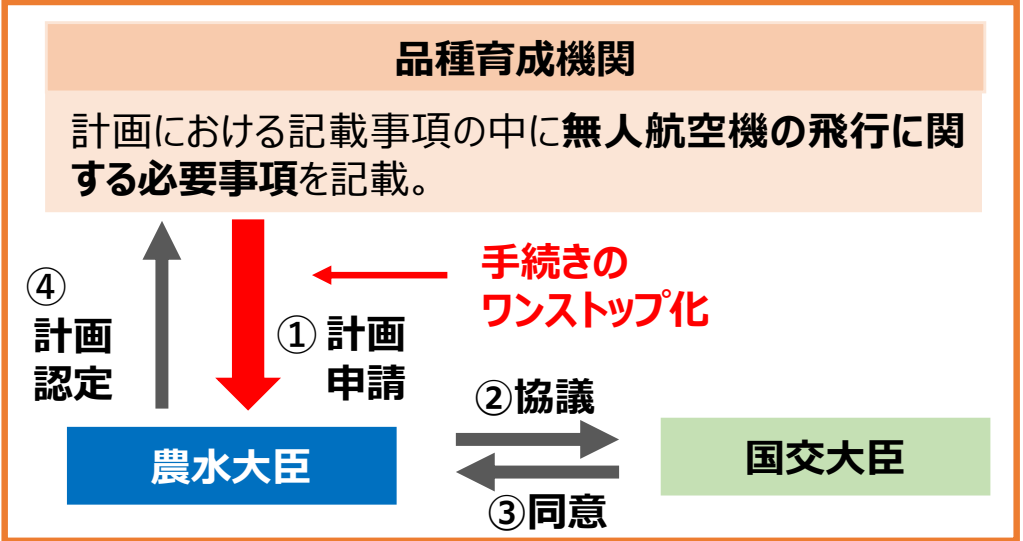
- ・ 品種の効率的な栽培体系の確立に向けた栽培実証を行うに当たり、栽培管理に活用。



許可・承認手順（現行）



重要品種育成事業計画による手続きの一元化



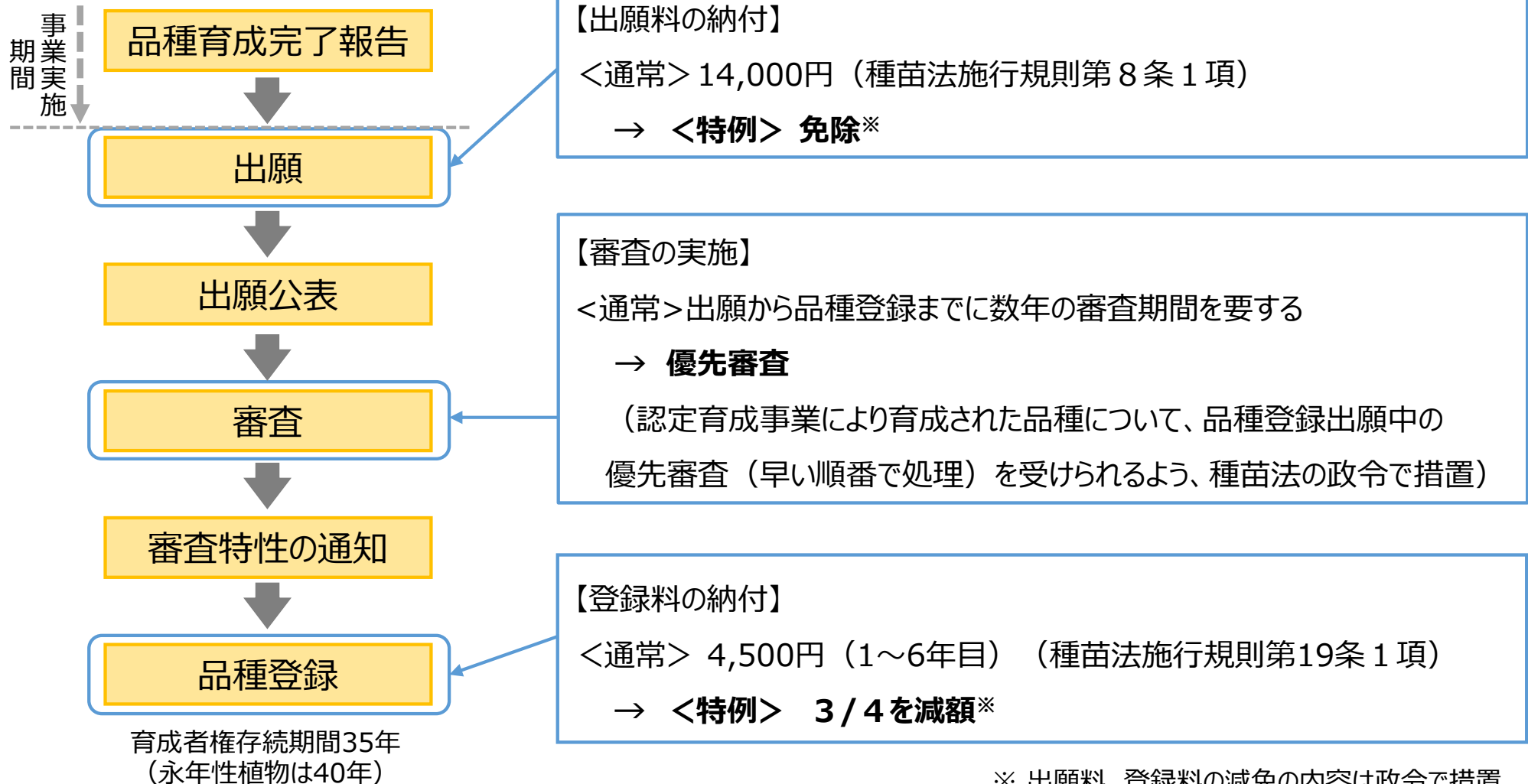
※ワンストップ化の対象となる特定飛行

- ・ 許可が必要な飛行の空域：人口集中地区の上空
- ・ 承認が必要な飛行の方法：夜間飛行、目視外飛行、30m未満の飛行、危険物輸送、物件投下

出願料・登録料の減免、優先審査（種苗法の特例）【育成事業計画の特例措置③】

- 認定育成事業により育成された品種について、品種登録を行う場合の**出願料・登録料（1～6年目）を減免**。（種苗法の特例）
- また、認定育成事業により育成された品種について、**品種登録出願中の優先審査**（早い順番で処理）を受けられる。（種苗法上の措置）

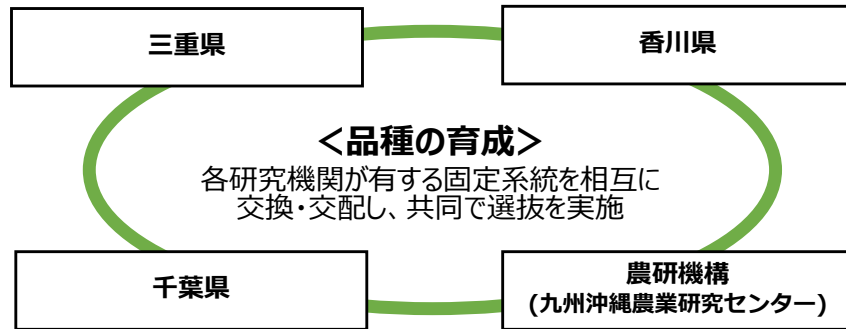
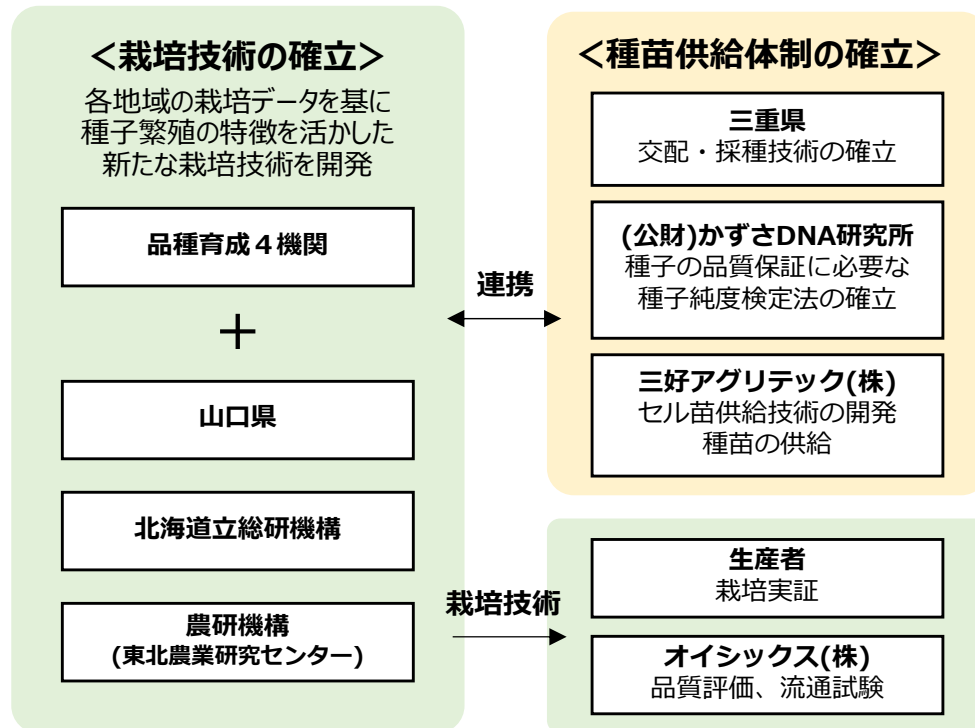
【品種登録手続のスキーム】



※ 出願料、登録料の減免の内容は政令で措置

(参考) 産官学の連携による品種育成の事例 (種子繁殖型イチゴ品種「よつぼし」)

■ 研究実施体制



■ イチゴ品種「よつぼし」

【2014年出願、2017年品種登録】

- ・ 国内で初めて実用化された種子繁殖型※イチゴ。
※増殖効率が高く、親株からの病害虫感染がほとんどないため、優良苗の大量生産が可能
- ・ 早生性があり、促成栽培に適する。果実品質に優れ、良食味。



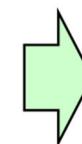
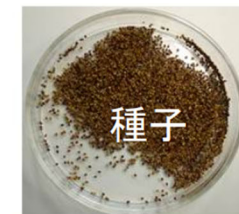
■ 連携概要等

- ・ 従来のイチゴは親株から増殖される（栄養繁殖性）が、増殖率が低く、親株から病害虫感染することが問題となっていたことから、種子繁殖型イチゴを開発することを目指し、三重県、香川県、千葉県、農研機構が共同で研究を開始（2009年）。
- ・ 各研究機関が有する系統を花粉親として相互に交換し、各機関が保有する系統に交配して有望系統を作出。各機関のほ場で比較試験を実施し、共同で選抜。
- ・ 出願前から、育成 4 機関に加え、山口県、道総研等を含めた 7 機関で栽培技術の開発に着手するとともに、種苗会社等と連携して種苗供給技術等の開発を進め、品種の円滑な普及体制を構築。

これまで 4 年 4 段階かかっている**種苗供給が 1 年で可能に**

	1年目	2年目	3年目	4年目
栄養繁殖型品種 現在の種苗供給	県研究所の原種を全農県本部へ配付	全農県本部で増殖しJAへ配付	JAで増殖し農家へ配付	農家の自家増殖で定植苗を育成
種子繁殖型品種 新しい種苗供給	種苗会社で種苗を生産し農家へ			

「よつぼし」は母系親 1 株から 4 千粒の種子生産が可能



病害虫フリーの苗が容易に得られる

- **種苗生産ほ場の集団化等**について、地域で検討し、その内容を**地域計画に反映**することで、効率的な種苗生産体制の構築に寄与。
- 実施関係市町村が、地域計画の協議の場を設ける場合には、重要品種種苗生産事業活動計画の認定を受けた種苗生産者等は、**当該協議の場へ参加の申出をすることができる**。
- 申出を受けた市町村は、**正当な理由がある場合を除き、当該申出に応じなければならない**。

地域計画の協議の場への参加のイメージ

協議の場

市町村による**協議の場の設置**（農業経営基盤強化促進法第18条第1項）

（協議内容）

- ・区域における農業の将来のあり方
- ・区域内の農用地の効率的な利用について 等

（参加者）

- ・農業者
- ・農業委員会
- ・農業協同組合 等



地域計画に
種苗生産ほ場の集団化等を反映



計画認定を受けた種苗生産者、種苗会社等

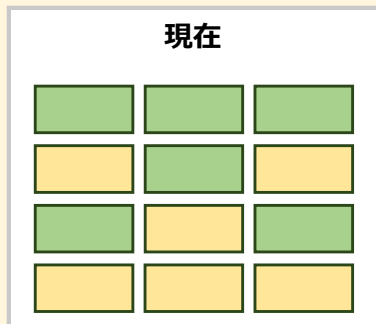
※重要品種種苗生産事業活動計画に参画する種苗会社等も協議の場へ参加することが可能。

農地の集団化のイメージ

■：種子生産ほ場

■：一般生産ほ場

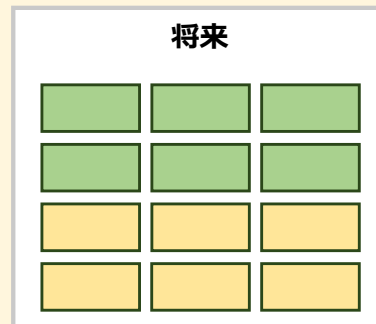
現在



集団化



将来



集団化によるメリット

- ・種苗生産特有の作業における労働生産性の向上
- ・機械作業効率の向上
- ・他品種との交雑リスクの低減



- 種苗生産時の品種の交雑防止等に向け、計画の認定を受けた種苗生産者やその他の農業者の間で、病害虫防除等への協力や栽培品種の選定等に関する協定を作成して市町村の認可を受けることで、農地の継承者にも協定の効力が継続する。（協定の承継効）
- 協定の認可後、農振農用地区域外農地（白地）を、農振農用地区域内農地（青地）に編入要請した場合は、農振法上の公告・縦覧に係る手続きを簡素化。（農振法の特例）

栽培管理協定のイメージ

<協定に定める事項>

- 協定の対象となる農用地の区域（協定区域）
- 栽培の管理に関する事項
- 協定の有効期間（～5年）
- 協定に違反した場合の措置

栽培の管理に関する事項のイメージ

- 適切な病害虫防除の実施
- 病害が発生した場合の措置（病害に罹患した株の抜き取り）
- 交雑防止のための協力 等

種苗の品質確保に向けた調整・協力の取組イメージ

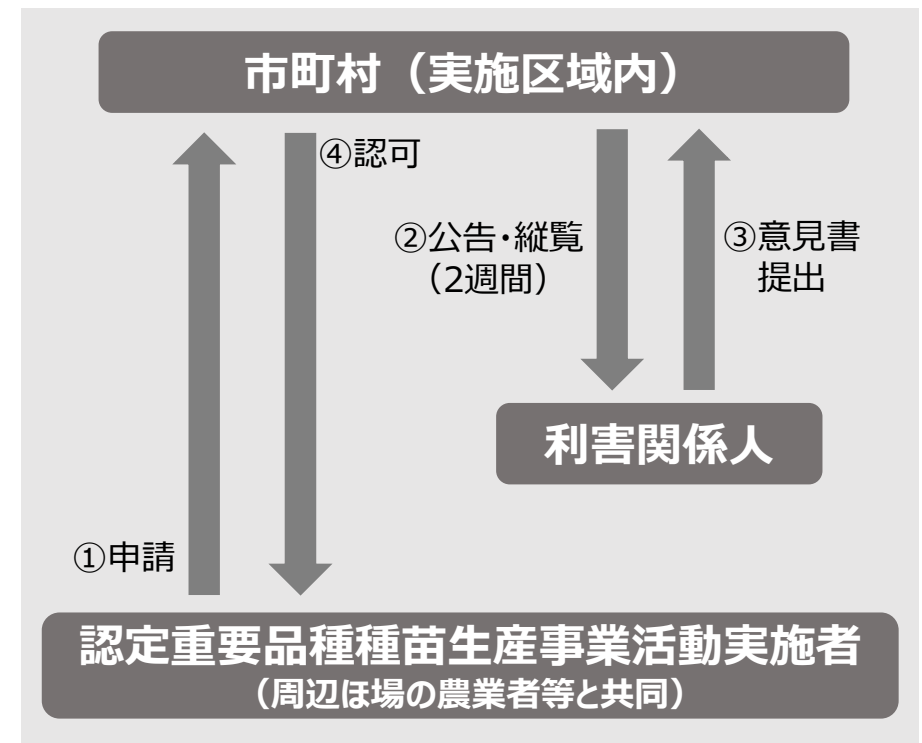


種苗生産における共同作業



真夏の異茎株の抜き取り作業の様子

栽培管理協定の認定スキーム



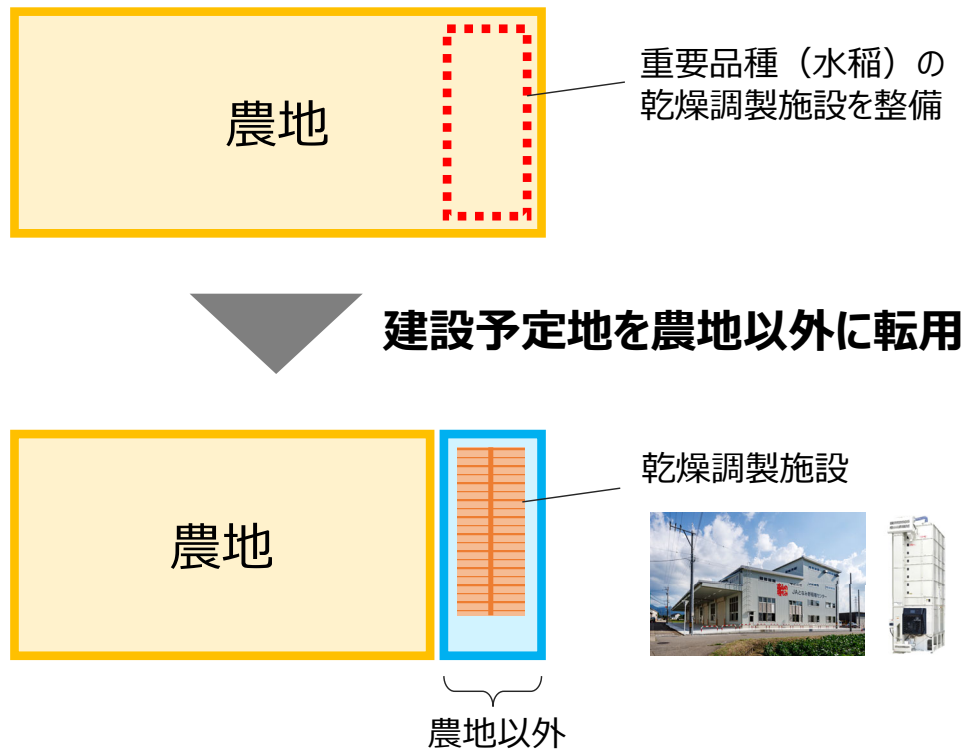
※ 認可を受けた協定に係る協定区域内農用地の所有者が、市町村に対し、当該農用地の区域を農用地区域として定めるべきことを要請した場合は、農振法の手続きの一部を省略できる。

農地転用許可手続きのワンストップ化（農地法の特例）

【種苗生産事業計画の特例措置③】

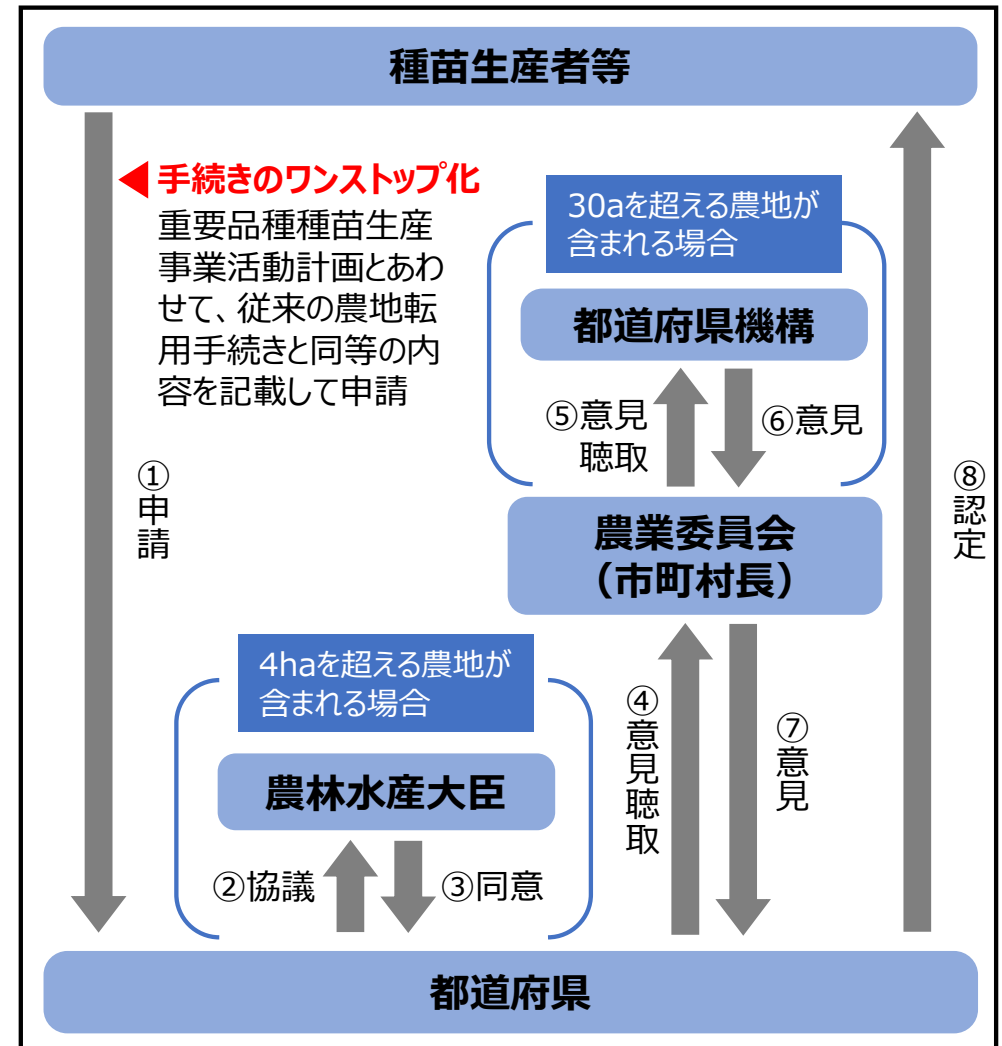
- 計画認定を受けた種苗生産者や種苗生産を委託する者が、認定重要品種種苗生産事業活動計画に基づき、**農地を農地以外に転用する場合、農地法に基づく許可があったものとみなす。**

＜例＞ 認定重要品種種苗生産事業活動計画に基づき、
農地内に種子乾燥調製施設を整備する場合



重要品種種苗生産事業活動計画の認定と併せて
農地法に基づく農地転用の許可も取得

法律に基づく農地転用許可手続きのスキーム



※指定市町村区域内の農地が含まれる場合は、都道府県は指定市町村へ協議を行い、指定市町村から農林水産大臣への協議及び農業委員会への意見聴取を行う。

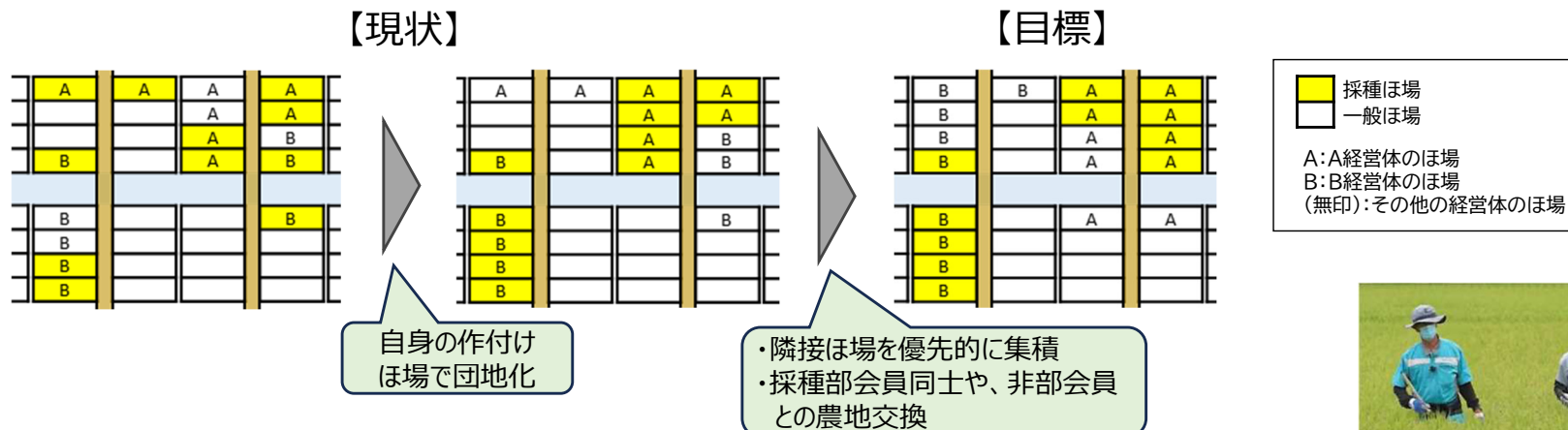
(参考) 種苗生産の効率化に向けた取組事例 (水稻: JAやさと (茨城県石岡市))

- JAやさと (茨城県石岡市) では、県内の水稻・麦類種子生産の約 3 割を占める一方、近年は種子生産者が減少する傾向。種子産地の維持・発展に向けて、目指す将来像のビジョンを策定し、ほ場の団地化や農作業・農業機械の共同化などに取り組む。

JAやさと採種部会の取組

①採種ほ場の団地化の推進

- 種子生産の効率化や、品質の向上のため、自作農地内の作付けほ場で団地化を推進
- 将来的には、農地交換により採種ほ場全体の団地化を構想



種苗生産における共同作業

②農作業・農業機械の共同化

- 田植えや防除等の一部作業の共同実施や大型機械の共同購入・利用など、種子生産者同士の協力体制の構築を目指す

③集落営農組織化、法人化の推進

- 集落営農組織化による、大型農業機械の保有の合理化、若手 (機械作業) と高齢者 (水管理等) の分業、集落の農地の団地化を目指す
- 大規模経営体では法人化の推進を検討

【気候変動等対応品種法関連の令和9年度予算概算要求の概要】

○ 重要品種育成・種苗生産総合対策

<対策のポイント>

気候変動等対応品種法に係る重要品種育成事業や重要品種種苗生産事業活動を行う農業者等に対して、各種支援事業の優遇措置等により集中的かつ効果的に支援を行い、高温耐性・多収等の形質を有する重要品種の迅速な育成やその種苗生産活動を促進し、重要品種の育成・普及を図ります。

<政策目標>

- 高温耐性や多収化などに資する重要品種を35品種育成〔令和12年度まで〕

<事業の全体像>

重要品種育成への支援

本法に基づく重要品種育成事業計画の認定を受けた者が行う**重要品種の育成事業の取組**に対し、予算上の優遇措置等を設定し、集中的に支援します。

- ・生産性の抜本的な向上を加速化する革新的新品種開発 【33億円】
- ・オープンイノベーション研究・実用化推進事業 【34億円の内数】
- ・スタートアップ創出強化対策 【9億円の内数】
- ・フードテック基盤技術確立プロジェクトのうち植物工場 【20億円の内数】

[連携事業]

品種開発に必要な育種素材となる遺伝資源の収集の取組やCGIARと共同した研究開発等を推進します。

- ・植物遺伝資源の収集・保存・提供の促進 【2億円】
- ・グローバルサウスの食料安全保障と農業のゼロエミッション化の両立に貢献する技術開発 【4億円の内数】

重要品種種苗生産への支援

本法に基づく種苗生産計画の認定を受けた農業者等が行う**重要品種の種苗生産活動の取組**に対し、予算上の優遇措置を設定し、集中的に支援します。

- ・種子生産基盤強化総合対策事業 【9億円の内数】
- ・次世代種子増殖技術の実行可能性調査事業 【5億円の内数】
- ・畑作物産地生産体制確立・強化事業 【72億円の内数】
- ・果樹農業生産力増強総合対策 【61億円の内数】
- ・野菜種子安定供給対策事業 【3億円の内数】
- ・ジャパンフラワー強化プロジェクト推進 【8億円の内数】
- ・新基本計画実装・農業構造転換支援事業 【834億円の内数】
- ・強い農業づくり総合支援交付金 【138億円の内数】
- ・スマート農業・農業支援サービス事業導入総合サポート事業 【182億円の内数】
- ・農山漁村振興交付金のうち中山間地農業推進対策 【100億円の内数】
- ・農山漁村振興交付金のうち最適土地利用総合対策 【100億円の内数】

重要品種の育成・普及の基盤強化

重要品種の迅速な育成・種苗生産を推進するため、育種素材の共有・活用、広域普及に向けた産地間連携による栽培実証等の取組、人材育成等を支援し、産官学の総力を結集して重要品種の育成・普及の基盤強化に取り組めます。

- ・重要品種の育成・普及の基盤強化に向けた連携促進事業 【4億円】

重要品種育成・種苗生産総合対策（各事業における優遇措置等①）

1. 重要品種の育成・普及の基盤強化

（農林水産技術会議事務局）

重要品種の育成・普及の基盤強化に向けた連携促進事業【新規】 【4億円】
・重要品種の育成・普及の基盤強化に向け、品種育成から種苗生産、実需までの関係者から構成されるプラットフォームを創設し、育成系統の活用体制の整備、種苗の広域供給体制の構築、人材育成、重要品種に関する情報発信等の取組を推進

2. 重要品種育成への支援

（農林水産技術会議事務局）

品種開発への支援

生産性の抜本的な向上を加速化する革新的新品種開発
<要件化>【33億円】
・革新的な特性を持った品種、省力的な種苗生産技術、育種素材の開発等について、高精度な分析機器も活用し推進

**「知」の集積と活用によるイノベーションの創出のうち
オープンイノベーション研究・実用化推進事業**
<ポイント加算>【34億円の内数】
・国の重要政策の推進や現場課題の解決に資する研究成果を創出し、社会実装を加速するため、産学官が連携して取り組む基礎研究及び実用化研究を支援

**「知」の集積と活用によるイノベーションの創出のうちアグリテック系
スタートアップ重点化支援対策のうちスタートアップ創出強化対策【新規】**
<ポイント加算>【9億円の内数】
・農林水産・食品分野における政策的・社会的課題の解決やサービス事業体等の新たなビジネス創出のため、SBIR制度のもと、革新的な研究開発とその事業化に取り組むスタートアップ・中小企業等を支援

フードテック基盤技術確立プロジェクトのうち植物工場【新規】
<ポイント加算>【20億円の内数】
・AI等を活用した次世代型の植物工場モデル、多品目生産技術、植物工場用品種等の開発等を支援

国際連携による遺伝資源の収集

植物遺伝資源の収集・保存・提供の促進 【2億円】
・育種素材となる多様な植物遺伝資源の確保に向け、中央アジア諸国等との連携により植物遺伝資源の収集・保存・提供を促進

**グローバルサウスの食料安全保障と
農業のゼロエミッション化の両立に貢献する技術開発** 【4億円の内数】
・グローバルサウスの食料安全保障と農業のゼロエミッション化の両立に向け、気候変動や肥料価格の高騰等の重要課題について、国際農業研究機関（CGIAR）と我が国の研究機関等が一体となって品種開発等を推進

※重要品種育成事業計画の認定を受けた者に対する優遇措置等（ポイント加算、要件化等）を講じることを検討しています。
今後の予算編成過程で変更の可能性があります。

重要品種育成・種苗生産総合対策（各事業における優遇措置等②）

3. 重要品種種苗生産への支援

（農産局、輸出・国際局、農村振興局）

種苗生産のための生産環境整備

新基本計画実装・農業構造転換支援事業

＜ポイント加算＞【834億円の内数】

- ・老朽化した共同利用施設の再集約・合理化に伴う、種子種苗生産関連施設等の整備・撤去を支援

強い農業づくり総合支援交付金

＜ポイント加算＞【138億円の内数】

- ・産地の収益力強化と持続的な発展及び食品流通の合理化のため、強い農業づくりに必要な種子種苗生産関連施設の整備を支援

スマート農業・農業支援サービス事業導入総合サポート事業

＜ポイント加算・要件緩和＞【182億円の内数】

- ・労働生産性の高い農業構造への転換に向けて、農業支援サービス事業者の育成や活動の促進、スマート農業技術の現場導入とその効果を高める栽培体系への抜本的な転換等の取組を総合的に支援

農山漁村振興交付金のうち中山間地農業推進対策

＜ポイント加算＞【100億円の内数】

- ・中山間地域等において、地域別農業振興計画に基づき、収益力向上や販売力強化等に関する取組等を支援

農山漁村振興交付金のうち最適土地利用総合対策

＜ポイント加算＞【100億円の内数】

- ・中山間地域等における農用地保全や、農山漁村地域における荒廃農地の解消等のため、地域の状況に応じた最適な土地利用構想の策定、粗放的な土地利用の導入、荒廃農地の再生や農用地保全のための活動、基盤整備等を総合的に支援

※重要品種種苗生産事業活動計画の認定を受けた者に対する優遇措置等（ポイント加算、要件化等）を講じることを検討しています。
今後の予算編成過程で変更の可能性があります。

種苗の省力生産技術等への支援

種子生産基盤強化総合対策事業

＜優先採択・ポイント加算＞【9億円の内数】

- ・米、麦、大豆の安定的な種子の生産体制の構築のため、高温耐性品種等や多収性品種への転換促進、新規種子生産者の確保、種子生産拡大の取組や種子生産の省力化に資する技術実証等を支援

次世代種子増殖技術の実行可能性調査事業【新規】

＜ポイント加算＞【5億円】

- ・最新鋭の植物工場を活用した、高温耐性や多収性などのニーズの高い品種の高速種子生産を図るための実証的な取組を支援

畑作物産地生産体制確立・強化事業

＜ポイント加算＞【72億円の内数】

- ・さとうきび、ばれいしょ、かんしょ等について、新品種の導入や、種苗の安定生産体制の強化に向けた新産地形成、省力技術等の実証、機械導入・施設整備等を支援
- ・（関連施策）種苗管理センターにおけるばれいしょ原原種の安定的な供給と品質の維持・向上のための施設整備等を支援

果樹農業生産力増強総合対策

＜ポイント加算＞【61億円の内数】

- ・省力的な苗木生産設備の整備や契約に基づく苗木の生産拡大に伴い必要となる安定生産技術の導入、苗木の需要動向や流通上の課題等に対応しつつ安定的かつ効率的に苗木を生産・流通・販売できる新たな苗木産地モデルの構築を支援

野菜種子安定供給対策事業

＜ポイント加算＞【3億円の内数】

- ・より安定的な野菜種子の供給体制を築くため、国内における新たな採種地調査、効率的な種子生産・保管技術の開発・実証等に加え、新たに、国内採種農家の育成・確保の取組を支援

ジャパンフラワー強化プロジェクト推進

＜ポイント加算＞【8億円の内数】

- ・花きの需要に合わせた安定供給に向け、高温障害を回避・軽減する技術、高温耐性・病害虫抵抗性品種への転換に係る実証や普及活動の取組、健全な種苗の確保に必要な資材や機械の導入等を支援

重要品種の育成・普及の基盤強化に向けた連携促進事業

令和9年度予算概算要求額 400百万円（前年度－）

＜対策のポイント＞

気候変動等による農業生産への悪影響が顕在化する中、気候変動等対応品種法に基づく、重要品種の迅速な育成・種苗生産を推進するため、育種素材の共有・活用、広域普及に向けた産地間連携による栽培実証等の取組、人材育成等を支援し、産官学の総力を結集して重要品種の育成・普及の基盤強化に取り組めます。

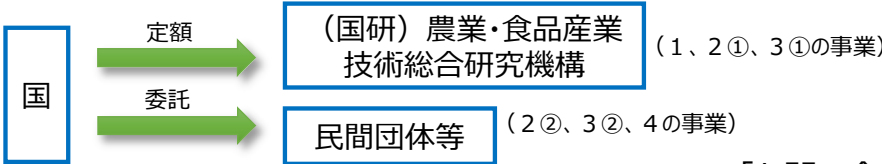
＜事業目標＞

高温耐性や多収化などに資する重要品種を35品種育成〔令和12年度まで〕

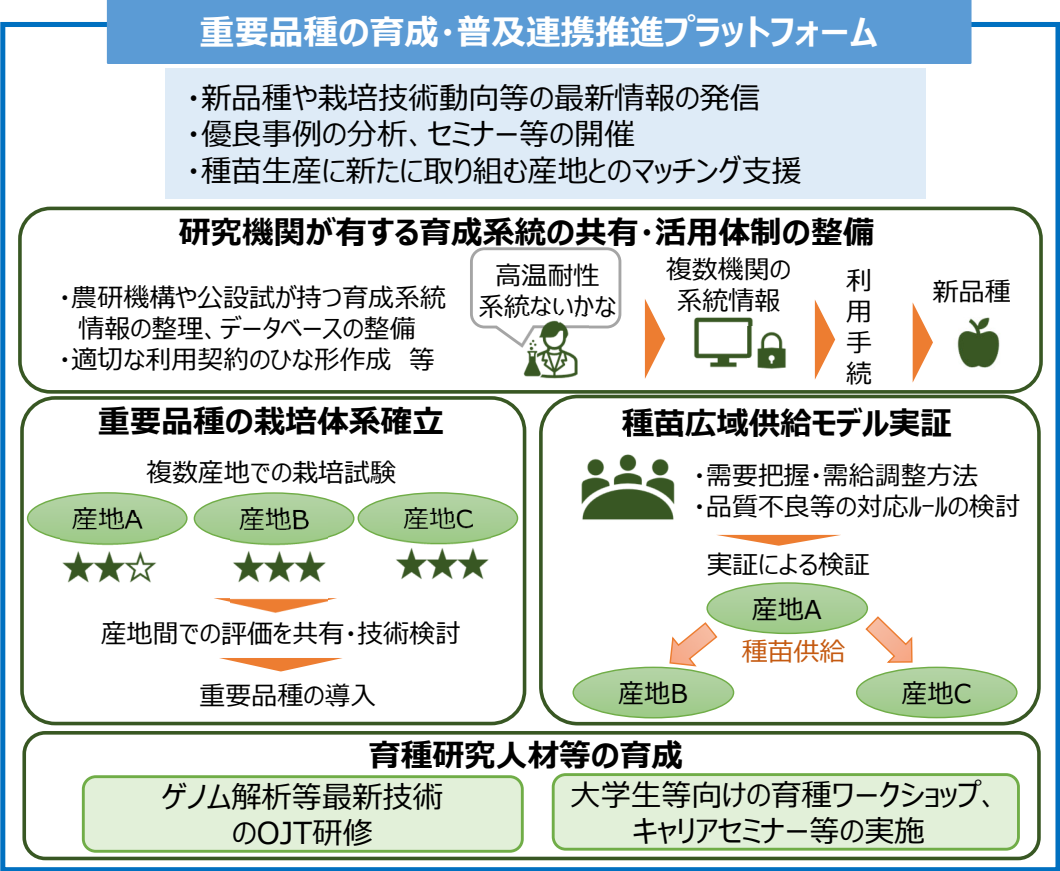
＜事業の内容＞

1. 育成系統の活用体制整備
35百万円（前年度－）
新品種の育成の迅速化に向けて、研究機関が保有する育成系統の情報を収集・整理し、適切な保護の下で共有・活用する体制を整備します。
2. 重要品種の迅速な広域普及に向けた産地間連携の取組支援
203百万円（前年度－）
① 産地間連携による重要品種選定と栽培体系の検証、技術検討会等を実施します。
② 種苗の広域供給体制の構築に向けた需給調整や品質改善等の課題解決に向けたモデル実証を実施します。
3. 育種研究人材等の育成
85百万円（前年度－）
① 公設試等の育種や重要品種の普及をリードする人材の育成に向けた新技術の習得のためのOJT研修を実施します。
② 将来の人材確保に向けた育種分野のキャリアプログラム等を実施します。
4. 重要品種の育成・普及に資する取組の横展開、情報の一元化と発信
77百万円（前年度－）
新品種や育種関連研究等の動向把握、重要品種の育成・種苗生産に資する情報の一元化等、プラットフォームの活動促進を行います。

＜事業の流れ＞



＜事業イメージ＞



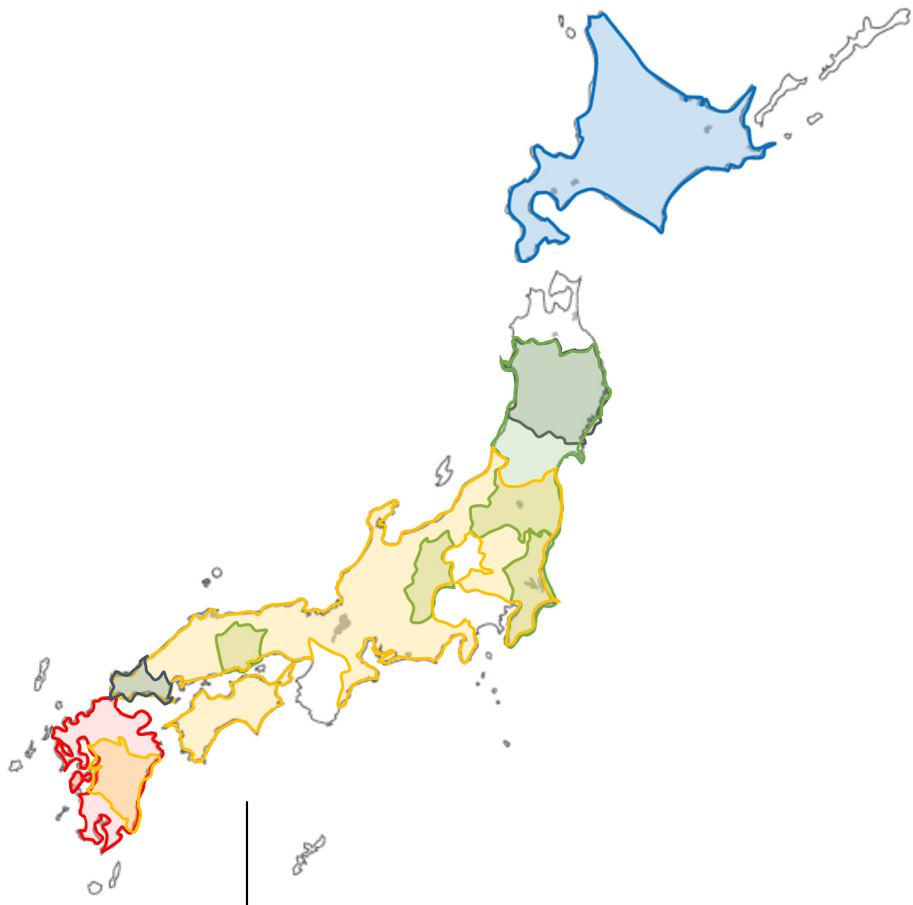
育成・普及すべき重要品種の考え方

品種育成機関が共通の育成目標を掲げ、産官学連携による効率的な品種育成体制の構築につながるよう、主要品目ごとに、現行で大宗を占める主要な品種と問題点を分析し、優先的に育成、普及を進めるべき形質と、現行で対応可能な既存品種を整理したもの。

各品目における育成を進めるべき形質については、今後定める「重要品種育成事業計画に係る認定等事務取扱要領」及び「重要品種種苗生産事業活動の促進等に関するガイドライン」で示す予定。

育成・普及すべき重要品種の考え方（水稻）

現在の主な品種の普及状況



作付上位 5 品種（令和 6 年度）

品種名	シェア（%）
コシヒカリ	32.6
ひとめぼれ	8.4
ヒノヒカリ	7.1
あきたこまち	6.7
ななつぼし	3.4

※地図上の品種普及状況の色付けは、「令和 7 年度米の農産物検査結果」（令和 8 年 3 月 31 日現在（速報値））に基づき当該品種作付面積推定 1000ha を超える道府県としている。

出典：（公社）米穀安定供給確保支援機構

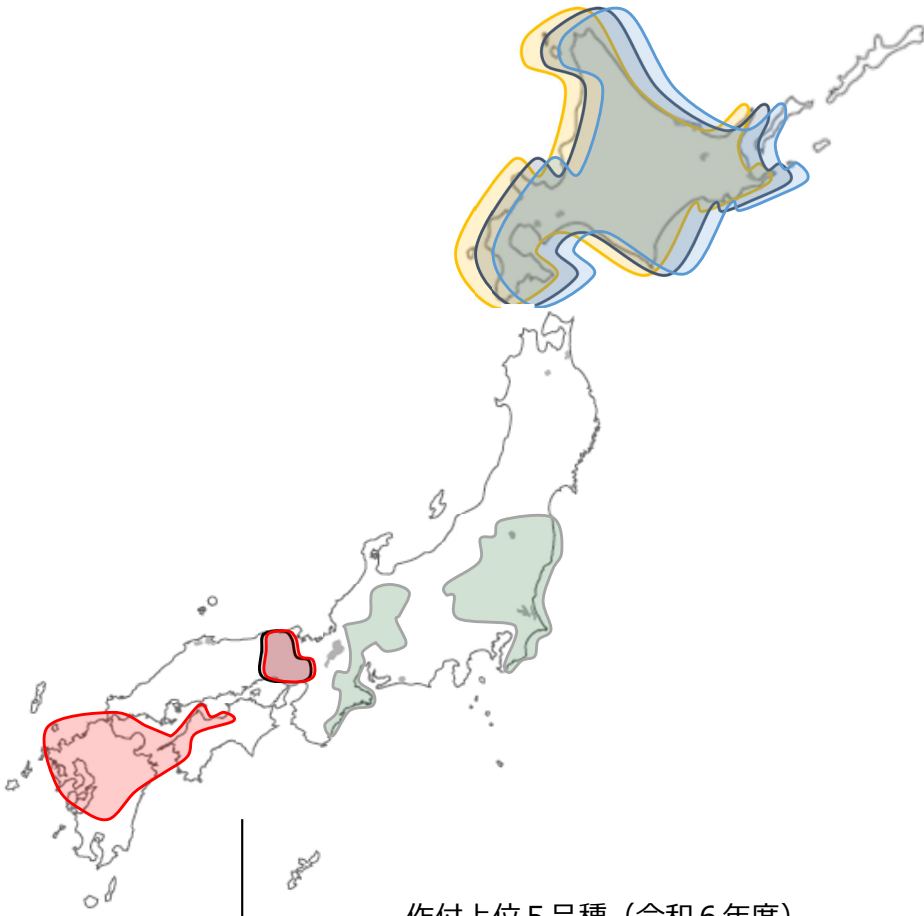
各地域における主な普及品種と求められる形質

地域	主な 普及品種	生じている課題と求められる形質		課題に対応可能な 既存品種と有する形 質（例）
		共通課題	地域別課題	
北海道	ななつぼし	<ul style="list-style-type: none">● 人手不足や規模拡大に伴う移植栽培の負担増加【直播適性】● 食料の安定供給の確保（増加する中食・外食産業に仕向けられる業務用ニーズへの対応）【多収性】● 気温上昇による胴割れ・白未熟粒の発生【胴割れ耐性、高温登熟耐性】● 気候変動による病害虫の発生・被害の拡大【いもち病抵抗性、斑点米カメムシ・イネカメムシ抵抗性】	—	さんさんまる 【直播適性、病害抵抗性】
東北	ひとめぼれ		しふくのみり 【直播適性、多収性】	
北陸	コシヒカリ		<ul style="list-style-type: none">● 気温上昇による高温不稔の発生【早朝開花性、高温不稔耐性】● 気候変動による病害虫の発生・被害の拡大【縞葉枯病抵抗性、籾枯細菌病抵抗性】	にじのきらめき 【多収性、高温登熟耐性、縞葉枯病抵抗性】
関東	コシヒカリ		<ul style="list-style-type: none">● 気温上昇による高温不稔の発生【早朝開花性、高温不稔耐性】● 気候変動による病害虫の発生・被害の拡大【紋枯病・籾枯細菌病・縞葉枯病抵抗性・トビロウカ抵抗性】● 気温上昇による生育可能期間の変化【再生二期作適性】	にじのきらめき 【多収性、高温登熟耐性、縞葉枯病抵抗性】
東海				
近畿				
中国・四国				
九州・沖縄	ヒノヒカリ		みなもさやか 【多収性、高温登熟耐性、病害抵抗性】	

※課題に対応可能な既存品種は品種登録出願公表されたものから抜粋

育成・普及すべき重要品種の考え方（小麦）

現在の主な品種の普及状況



作付上位5品種（令和6年度）

No.	品種名	シェア (%)
1	きたほなみ	38.4
2	ゆめちから	9.8
3	シロガネコムギ	7.0
4	春よ恋	6.6
5	さとのそら	6.4

※地図上の品種普及状況の色付けは、「令和7年産麦類の農産物検査結果」（令和8年3月31日現在（速報値））に基づき当該品種作付面積推定100haを超える道県としている。

出典：農林水産省 麦の生産をめぐる事情

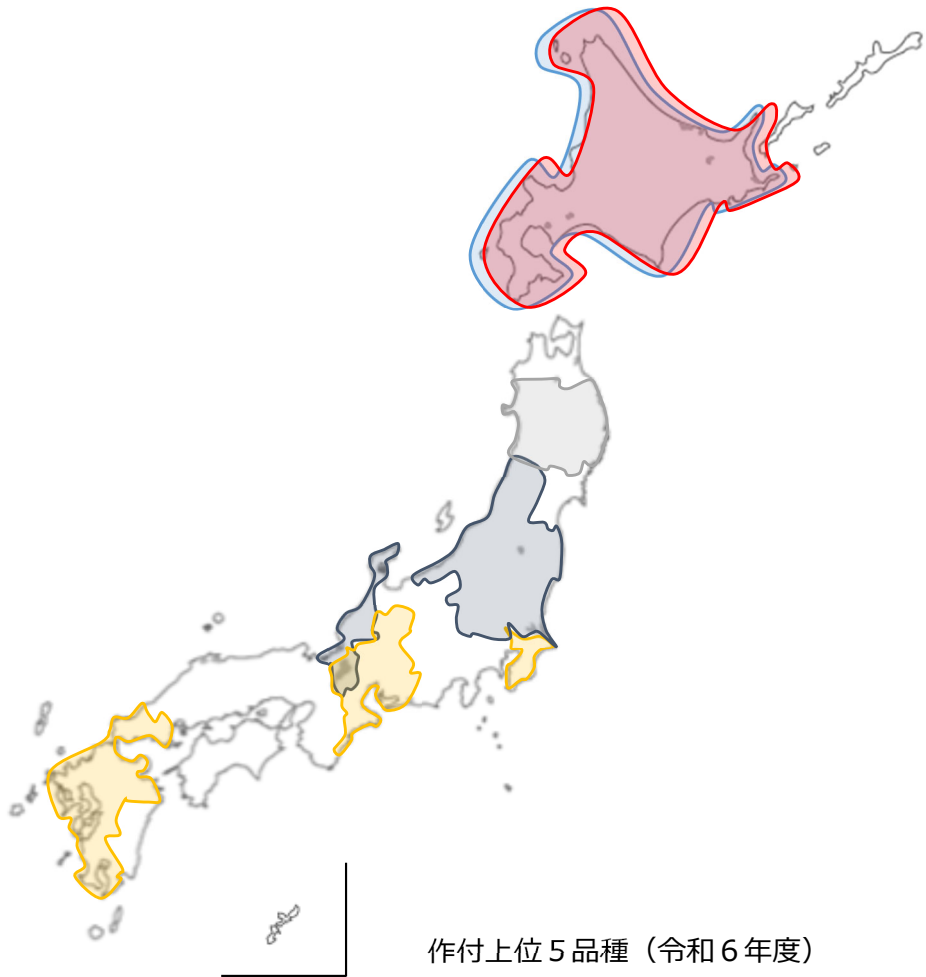
各地域における主な普及品種と求められる形質

地域	主な普及品種	生じている課題と求められる形質		課題に対応可能な既存品種と有する形質（例）
		共通課題	地域別課題	
北海道	きたほなみ ゆめちから 春よ恋	● 食料の安定供給の確保（輸入から国産への切り替えに向けた生産性向上）【多収性】 ● 気温上昇や降水量の増加による赤かび病等の発生・被害の拡大【病害虫抵抗性（赤かび病）】 ● 国内外の経済情勢等の変化による化学肥料のコスト増、環境負荷の低減【施肥量の低減に資する形質（BNI）】	● 気温上昇や降水量の増加による病害等の発生・被害の拡大【病害虫抵抗性（赤さび病）、穂発芽耐性】 ● 土壌病害の発生拡大【病害虫抵抗性（縞萎縮病、萎縮病）】	きたほなみR 【病害虫抵抗性（縞萎縮病）、穂発芽耐性】 ゆめほわいと 【病害虫抵抗性（縞萎縮病、萎縮病）穂発芽耐性】
東北	ゆきちから		● 気温上昇や降水量の増加による病害等の発生・被害の拡大【穂発芽耐性】	夏黄金 【病害虫抵抗性（縞萎縮病、赤かび病）、穂発芽耐性】
北陸			● 気温上昇や降水量の増加による病害等の発生・被害の拡大【病害虫抵抗性（赤さび病、うどん粉病等）、秋播性付与】	—
関東	さとのそら			
東海	あやひかり きぬあかり			
近畿	びわほなみ ふくさやか			なないろは 【多収性、穂発芽耐性、縞萎縮病】
中国・四国	さぬきの夢 2009 せときらら			せとのほほえみ 【穂発芽耐性、病害虫抵抗性（縞萎縮病）、秋播性】
九州・沖縄	シロガネコムギ チクゴイズミ		● 気温上昇や降水量の増加による病害等の発生・被害の拡大【病害虫抵抗性（赤さび病、うどん粉病等）、穂発芽耐性、秋播性付与】	—

※課題に対応可能な既存品種は品種登録出願公表されたものから抜粋

育成・普及すべき重要品種の考え方（大豆）

現在の主な品種の普及状況



作付上位 5 品種（令和 6 年度）

No.	品種名	シェア（%）
1	フクユタカ	15.4
2	里のほほえみ	10.0
3	ユキホマレ	6.1
4	リュウホウ	8.3
5	ユキホマレR	6.1

※地図上の品種普及状況の色付けは、「令和7年産大豆の農産物検査結果」（令和8年1月31日現在（速報値））に基づき当該品種作付面積推定100haを超える道県としている。

出典：農林水産省 大豆をめぐる事情

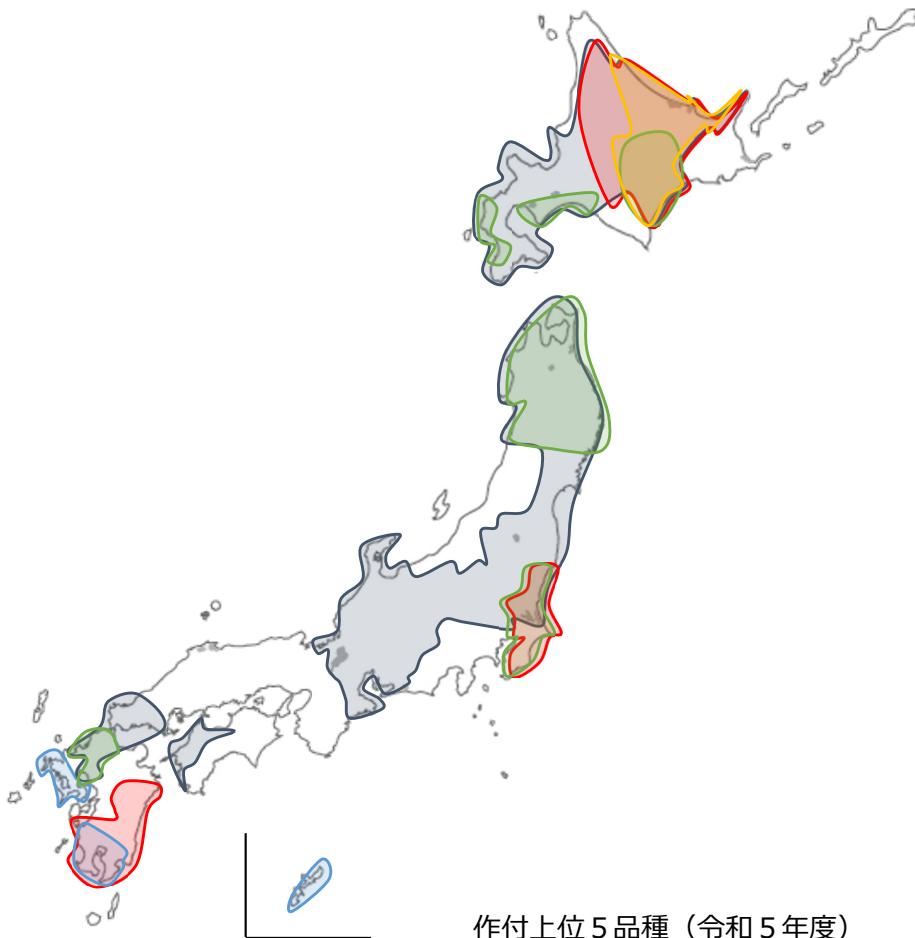
各地域における主な普及品種と求められる形質

地域	主な普及品種	生じている課題と求められる形質		課題に対応可能な既存品種と有する形質（例）
		共通課題	地域別課題	
北海道	ユキホマレ ユキホマレR	<ul style="list-style-type: none">食料の安定供給の確保（輸入から国産への切り替えに向けた生産性の向上）【多収性】気温上昇等による青立ちや小粒化等の発生・被害の拡大【気候変動に伴う生理障害耐性】	—	—
東北	リュウホウ		<ul style="list-style-type: none">人手不足や規模拡大に伴う収穫作業の負担増加【機械収穫適性（難裂莢性、耐倒伏性）】水田転換畑の大豆作への利用増加に伴う黒根腐病や茎疫病の発生【病害虫抵抗性（黒根病、茎疫病）】生育期間の気温上昇や暴風雨の激化による葉焼病の発生・被害の拡大【病害虫抵抗性（葉焼病）】	そらひびき 【難裂莢性、耐倒伏性、多収性、病害虫抵抗性（葉焼病）】
北陸	里のほほえみ エンレイ			そらみずき 【難裂莢性、多収性、病害虫抵抗性（葉焼病）】
関東	里のほほえみ			そらみずき、そらたかく、そらみのり 【難裂莢性、耐倒伏性（そらたかく）、多収性、病害虫抵抗性（葉焼病）】
東海	フクユタカ フクユタカA1号			そらたかく、そらみのり 【難裂莢性、耐倒伏性（そらたかく）、多収性、病害虫抵抗性（葉焼病）】
近畿	フクユタカ ことゆたかA1号			そらたかく、そらみのり 【難裂莢性、耐倒伏性（そらたかく）、多収性、病害虫抵抗性（葉焼病）】
中国・四国	サチユタカ サチユタカA1 フクユタカ			そらたかく、そらみのり、きらゆたか 【難裂莢性、耐倒伏性（そらたかく）、多収性、病害虫抵抗性（葉焼病）】
九州・沖縄	フクユタカ			そらたかく、そらみのり、きらゆたか 【難裂莢性、耐倒伏性（そらたかく）、多収性、病害虫抵抗性（葉焼病）】

※課題に対応可能な既存品種は品種登録出願公表されたものから抜粋

育成・普及すべき重要品種の考え方（ばれいしょ）

現在の主な品種の普及状況



※地図上の品種普及状況の色付けは、「令和6年度いも・でん粉に関する資料」で当該品種作付面積50haを超える道県としている。北海道内の分布は「北海道における馬鈴しょの概況」（北海道農産基金協会）に基づき作成。

出典：農林水産省 令和6年度いも・でん粉に関する資料

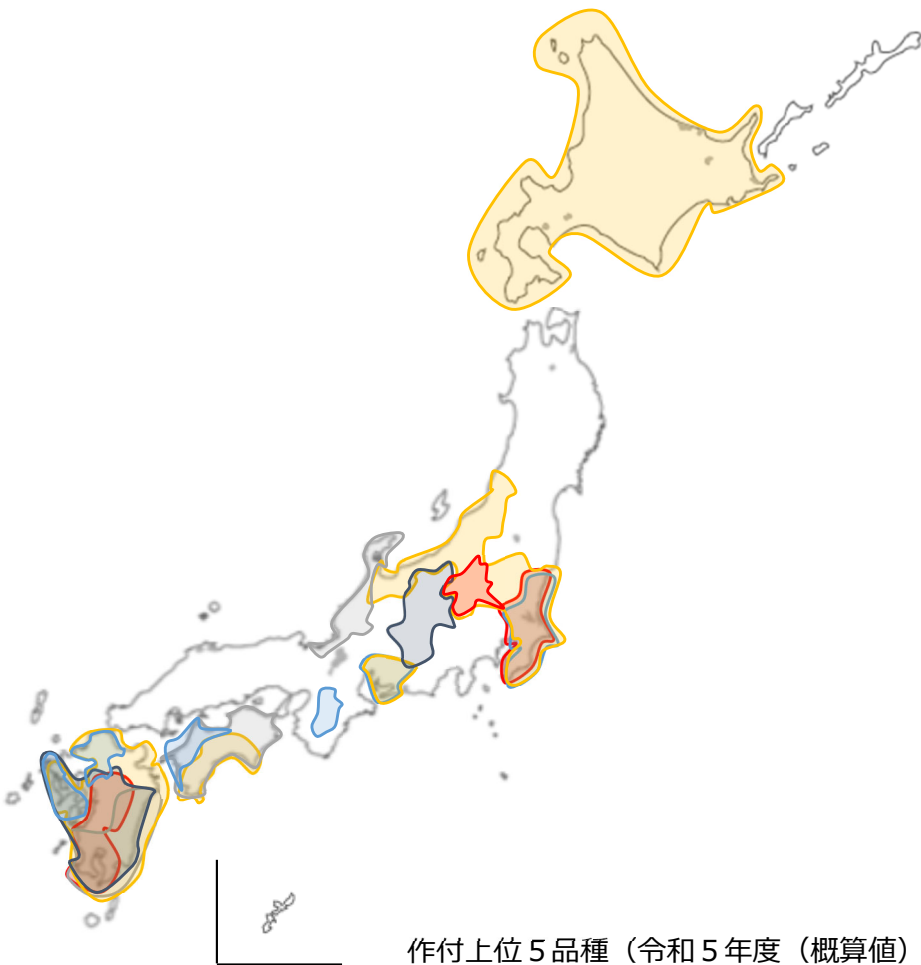
各地域における主な普及品種と求められる形質

地域	主な普及品種	生じている課題と求められる形質	課題に対応可能な既存品種と有する形質（例）
北海道	コナヒメ 男爵薯 メークイン トヨシロ		きたかむい・ゆめいころ 【多収性、病害虫抵抗性（ジャガイモシストセンチュウ）】 しんせい 【貯蔵性、病害虫抵抗性（ジャガイモシストセンチュウ）】 北育33号 【病害虫抵抗性（ジャガイモシストセンチュウ・ウイルス病）、打撲黒変耐性】
東北	男爵薯 メークイン	<ul style="list-style-type: none"> ● 人手不足や規模拡大に伴う収穫作業の負担増加【機械収穫適性（打撲黒変耐性、皮むけ耐性）、種子播栽培適性】 ● 食料の安定供給の確保【多収性、貯蔵性】 ● 高温・干ばつによる生理障害（収量・でん粉価・品質低下）【高温・干ばつ耐性】 ● 気候変動に伴う病害虫の被害の深刻化【病害虫抵抗性（ウイルス病、青枯病、軟腐病等）】 ● ジャガイモシストセンチュウ等の発生・被害の拡大【病害虫抵抗性（ジャガイモシストセンチュウ等）】 	※生産量の約9割は北海道及び九州・沖縄地域で生産されていることから、これら地域で普及する品種が同様に普及すると見込む。
北陸			
関東			
東海			
近畿			
中国・四国			
九州・沖縄	ニシユタカ メークイン		ながさき黄金 【病害虫抵抗性（ジャガイモシストセンチュウ・ウイルス病、青枯病）】 アイマサリ 【多収性、病害虫抵抗性（ジャガイモシストセンチュウ・ウイルス病）】 しまあかり 【多収性、病害虫抵抗性（ジャガイモシストセンチュウ）】

※課題に対応可能な既存品種は品種登録出願公表されたものから抜粋

育成・普及すべき重要品種の考え方（かんしょ）

現在の主な品種の普及状況



No.	品種名	シェア (%)
1	ベにはるか	24.7
2	コガネセンガン	20.2
3	シルクスイート	9.7
4	高系14号	7.6
5	ベニアズマ	6.9

※地図上の品種普及状況の色付けは、「令和 6 年度いも・でん粉に関する資料」で当該品種作付面積25haを超える道県としている。

出典：農林水産省 令和6年度いも・でん粉に関する資料

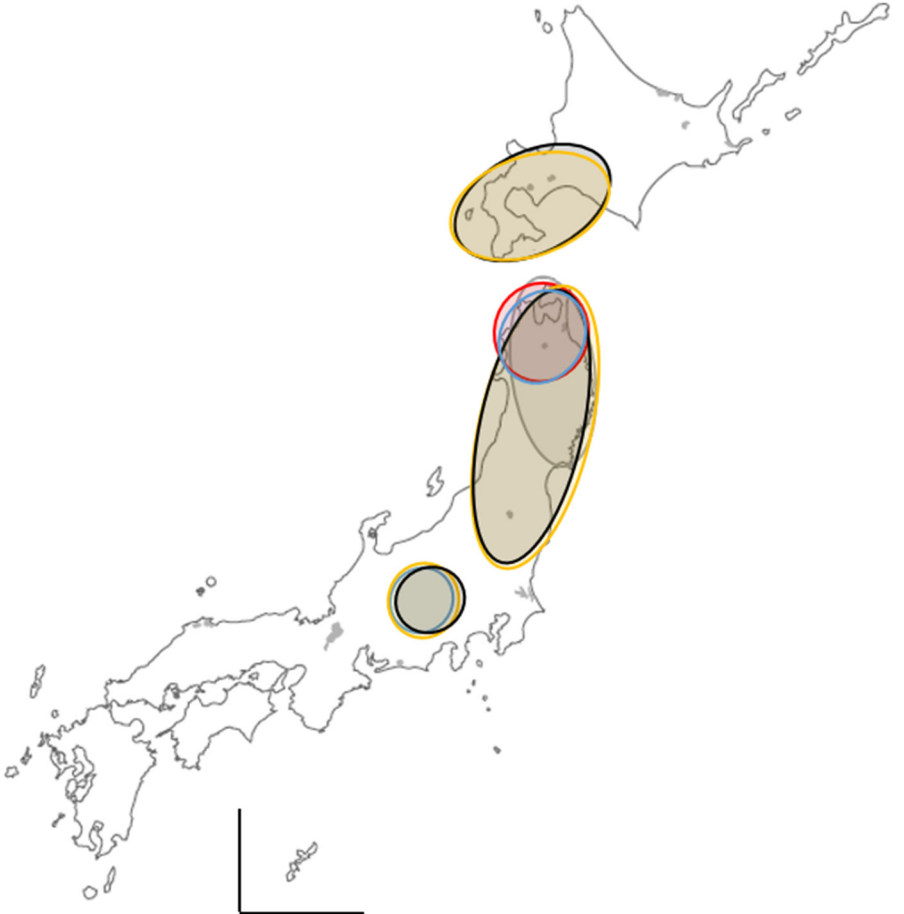
各地域における主な普及品種と求められる形質

地域	主な普及品種	生じている課題と求められる形質	課題に対応可能な既存品種と有する形質（例）
北海道 東北	ベにはるか シルクスイート ベニアズマ	<ul style="list-style-type: none">● 人手不足や規模拡大に伴う作業の負担増加【機械移植適性、機械収穫適性】● 食料の安定供給の確保【多収性】● 高温・干ばつによる生理障害（収量・品質低下）【高温・干ばつ耐性】● サツマイモ基腐病等の病虫害の発生【病虫害抵抗性（サツマイモ基腐病等）】	ゆめほと 【機械移植適性、機械収穫適性、多収性、病虫害抵抗性（基腐病等）】 ゆきこまち 【多収性】
北陸	高系14号		ゆめほと 【機械移植適性、機械収穫適性、多収性、病虫害抵抗性（基腐病等）】 あまはづき 【多収性、病虫害抵抗性（ネコブセンチュウ等）】
関東	ベにはるか シルクスイート ベニアズマ		
東海	ベニアズマ		
近畿	ベニアズマ 高系14号		
中国・四国	高系14号		こないしん、みちずく、べにひなた、コガネタイガン 【多収性、病虫害抵抗性（基腐病等）】
九州・沖縄	ベにはるか コガネセンガン		

※課題に対応可能な既存品種は品種登録出願公表されたものから抜粋

育成・普及すべき重要品種の考え方（りんご）

現在の主な品種の普及状況



作付上位 5 品種（令和 5 年度）

No.	品種名	シェア (%)
1	ふじ	47.3
2	つがる	10.4
3	王林	7.3
4	ジョナゴールド	6.7
5	シナノスイート	3.4

※地図上の品種普及状況の色付けは、「令和 5 年度特産果樹生産動態等調査」で当該品種作付面積およそ50haを超える県（地域）を中心としている。

出典：令和5年度特産果樹生産動態等調査

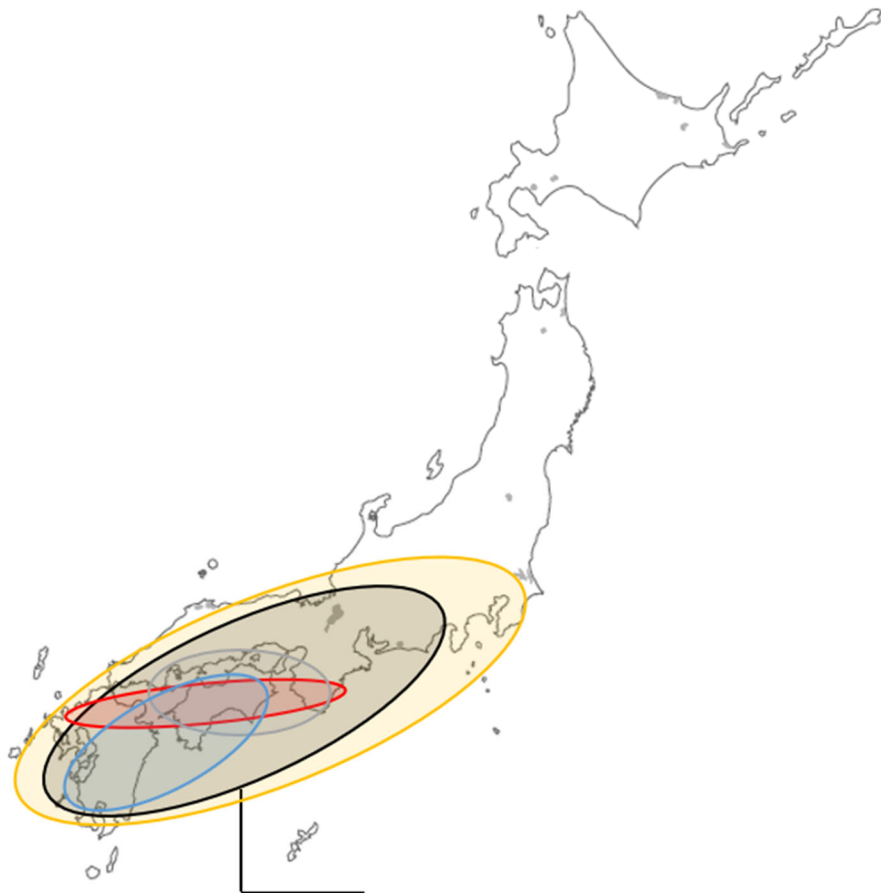
各地域における主な普及品種と求められる形質

地域	主な 普及品種	生じている課題と求められる形質		課題に対応可能な 既存品種と有する 形質（例）
		共通課題	地域別課題	
北海道	つがる	<ul style="list-style-type: none">● 人手不足や規模拡大に伴う整枝・せん定、収穫作業の負担増【カラムナー性】● 人手不足や規模拡大に伴う人工受粉等の結実管理作業の負担増【自家和合性】● 人手不足や規模拡大に伴う摘果等の結実管理作業の負担増【自家摘果性】● 気候変動に伴う病害虫の発生頻度の上昇、被害の深刻化による収量の減少【病害虫抵抗性（黒星病、斑点落葉病、褐斑病）】● 高品質な果実の海外需要の拡大に伴う品質の維持【日持ち性】	—	紅みのり 【高温着色性、日持ち性】
東北	ふじ		<ul style="list-style-type: none">● 気温上昇による着色不良等の生理障害の被害の拡大【高温着色性】	錦秋 【高温着色性、病害虫抵抗性（斑点落葉病）】 紅つるぎ 【カラムナー性】
北陸				
関東				
東海				
近畿 中国・四国 九州・沖縄	—	—	—	—

※課題に対応可能な既存品種は品種登録出願公表されたものから抜粋

育成・普及すべき重要品種の考え方（かんきつ）

現在の主な品種の普及状況



作付上位5品種（令和5年度）

No.	品種名	シェア（%）
1	うんしゅうみかん	65.1
2	シラヌヒ	4.1
3	イヨカン	2.8
4	ハッサク	2.5
5	ボンカン	2.5

※地図上の品種普及状況の色付けは、「令和5年度特産果樹生産動態等調査」で当該品種作付面積およそ50haを超える県（地域）を中心としている。

出典：令和5年度特産果樹生産動態等調査
※香酸カンキツ（ユズ）を除く

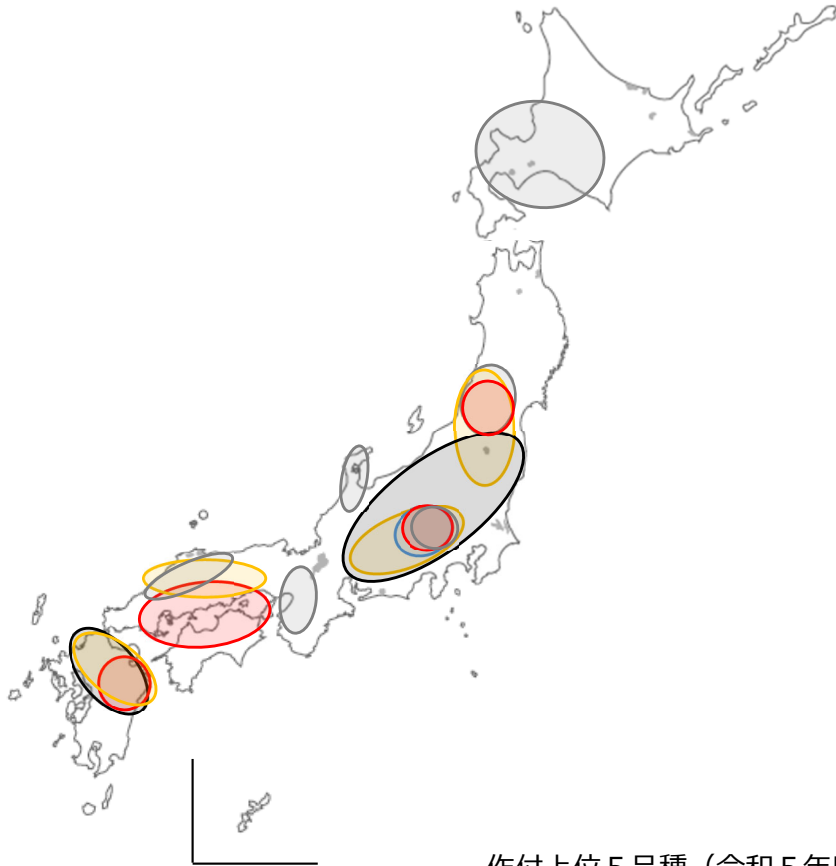
各地域における主な普及品種と求められる形質

地域	主な普及品種	生じている課題と求められる形質	課題に対応可能な既存品種と有する形質（例）
北海道 東北 北陸	—	—	—
関東	うんしゅう みかん	<ul style="list-style-type: none"> ● 気温上昇による着色不良、浮皮等の生理障害の発生、被害の拡大【高温着色性、難浮皮性】 ● 気候変動に伴う病害虫の発生頻度の上昇、被害の深刻化による収量の減少【病害虫抵抗性（かいよう病、そうか病、黒点病）】 ● 高品質な果実の海外需要の拡大に伴う品質の維持【日持ち性】 ● 隔年結果の発生に伴う生産量の不安定化【安定して着花する形質】 	みはや 【高温着色性、難浮皮性、病害虫抵抗性（そうか病）】
東海			
近畿			
中国・四国			
九州・沖縄			

※課題に対応可能な既存品種は品種登録出願公表されたものから抜粋

育成・普及すべき重要品種の考え方（ぶどう）

現在の主な品種の普及状況



作付上位5品種（令和5年度）

No.	品種名	シェア（%）
1	シャインマスカット	25.9
2	巨峰	20.0
3	ピオーネ	14.4
4	デラウェア	12.8
5	甲州	4.6

※地図上の品種普及状況の色付けは、「令和5年度特産果樹生産動態等調査」で当該品種作付面積およそ50haを超える県（地域）を中心としている。

出典：令和5年度特産果樹生産動態等調査

各地域における主な普及品種と求められる形質

地域	主な普及品種	生じている課題と求められる形質		課題に対応可能な既存品種と有する形質（例）
		共通課題	地域別課題	
北海道	デラウェア	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動に伴う病害虫の発生頻度の上昇、被害の深刻化による収量の減少【病害虫抵抗性（べと病、黒とう病、晩腐病）】 高品質な果実の海外需要の拡大に伴う品質の維持【日持ち性】 	—	—
東北	デラウェア、シャインマスカット			
北陸	巨峰			
関東	シャインマスカット、巨峰		<ul style="list-style-type: none"> 気温上昇による着色不良、被害の拡大【高温着色性】 	グロースクローネ【高温着色性】
東海	巨峰、シャインマスカット			
近畿	デラウェア			
中国・四国	ピオーネ、シャインマスカット			
九州・沖縄	巨峰、シャインマスカット			

※課題に対応可能な既存品種は品種登録出願公表されたものから抜粋

育成・普及すべき重要品種の考え方（野菜・花き）

野菜・花きにおいて生じている課題と求められる形質

	生じている課題と求められる形質	課題に対応可能な既存品種と有する形質（例）
野菜	<p>【品目共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人手不足や規模拡大に伴う作業の負担増加【機械収穫適性】 ● 食料の安定供給の確保【多収性】 ● 気候変動に伴う病害虫の被害の深刻化による収量の減少【病害虫抵抗性】 	
	<p>【果菜類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人手不足や規模拡大に伴う作業の負担増加【単為結果性等】 ● 気温上昇による生理障害の発生・被害の拡大【裂果への耐性、花芽分化抑制への耐性等】 	<p>（トマト）桃太郎ブライト、愛夏等 食料の安定供給の確保【多収性】 気温上昇による生理障害の発生・被害の拡大【裂果への耐性】 気候変動に伴う病害虫の被害の深刻化による収量の減少【病害虫抵抗性（黄化葉巻病、葉かび病、半身萎凋病等）】</p> <p>（キュウリ）緑夏、あすとり等 気候変動に伴う病害虫の被害の深刻化による収量の減少【病害虫抵抗性（黄化えそ病等）】</p>
	<p>【葉根菜類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 気温上昇による生理障害の発生・被害の拡大【腐敗症状への耐性、干ばつ耐性等】 	<p>（ネギ）夏もえか等 気温上昇による生理障害の発生・被害の拡大【腐敗症状への耐性】</p>
花き	<ul style="list-style-type: none"> ● 気温上昇による早期開花もしくは遅延、生育阻害の発生・被害の拡大【高温耐性】 ● 気候変動に伴う病害虫の発生頻度の上昇、被害の深刻化による収量の減少【病害虫抵抗性】 ● 輸送中の品質の低下【日持ち性】 	<p>（カーネーション） ゆめかれん等 気候変動に伴う病害虫の発生頻度の上昇、被害の深刻化による収量の減少【病害虫抵抗性（萎凋細菌病）】</p> <p>（ダリア） エターニティシャイン等 輸送中の品質の低下【日持ち性】</p>

※野菜・花きの品目においては産地や生産者によって栽培品種が異なっているため、全体的な課題として整理する。

※課題に対応可能な既存品種は品種登録出願公表されたものから抜粋